

2010年4月28日

東レ株式会社

独ダイムラーと炭素繊維複合材料(CFRP)自動車部品の 共同開発契約を締結 メルセデスベンツ乗用車に適用

東レ株式会社(本社:東京都中央区、社長:榎原 定征、以下「東レ」)は、このたび、ドイツの大手自動車メーカー、ダイムラーAG(本社:ドイツ・シュツットガルト、会長:ディーター・ツェッケ、以下「ダイムラー」と、炭素繊維複合材料(CFRP)自動車部品の共同開発契約を締きました。

両社は今後、東レが開発したCFRPの革新的成形技術である「ハイサイクルRTM(Resin Transfer Molding)成形技術」を活用して、CFRP自動車部品の開発を進めます。本開発において、東レは、最適な炭素繊維素材の開発に加えて、主として部品設計と成形プロセスの技術開発を、ダイムラーは主として接合技術の開発を進めます。両社が保有する技術を融合することで、圧倒的に短サイクルの成形加工プロセスを実現し、3年以内にダイムラーのメルセデスベンツ乗用車にCFRP部品を適用開始する計画です。

世界最大の炭素繊維メーカーである東レは、炭素繊維複合材料事業において自動車分野における市場拡大を最重要課題の一つに掲げています。当社は、自動車・航空機分野向けの総合技術開発拠点「A&Aセンター(Automotive & Aircraft Center)」(愛知県名古屋市)の中核施設として、2008年6月に自動車用途向けの「オートモーティブセンター(AMC)」を、2009年4月にCFRP成形品の技術・用途開発拠点である「アドバンスドコンポジットセンター(ACC)」を設立し、自動車用途に最適な各種材料や加工技術の開発に取り組んでいます。

ダイムラーは環境対応を最重要戦略に掲げ、環境対応新技術の開発を積極的に推進しています。ダイムラーはさらなる燃費向上と排出ガス削減に向けて、「メルセデスベンツの全モデルについてホワイトボディを先代より最大10%軽量化する」という開発目標を掲げています。この取り組みのおかげで、安全・快適装備の追加や代替駆動システムに使用する新しい部品による重量増があってもその増加を相殺してあまりある軽量化が実現できます。ダイムラーはこの目標達成に向けて、「適材適所」の原則に従い開発を進めており、その一環として、今後CFRPの適用部品と対象車種の拡大を積極的に進めていく計画です。

現在、自動車業界においては、燃費向上に向けた車体の軽量化が重要な課題となっており、車体重量の大幅な軽量化を実現する解決策として、炭素繊維の採用がいよいよ本格化する見通しです。当社は、高級車分野のトップメーカーで優れた技術開発力を有するダイムラーとの連携により、CFRP部品の量産技術を確立し、自動車分野における炭素繊維複合材料の一層の適用拡大を目指します。東レの先端材料である炭素繊維“トレカ”的環境分野・新エネルギー分野における適用・普及拡大を通じて、当社は地球環境問題の解決に向けて貢献してまいります。

以上